

JRなどの乗り継ぎ割引、年内公表へ

新幹線開業後のえちごトキめき鉄道



農業委員会の解体許すな

政府の規制改革会議の「農業改革に関する意見」では、農業委員会の委員の公選制廃止、行政庁への意見・建議もやめさせ、市長村長の下請け機関化しようとしています。この意見を受けて自民党も10日、さらに改悪を進める提案をまとめました。

私は自民党の動きを批判した農業委員会の新聞、全国農業新聞を手にとり閣議決定させない働きかけを急いでするよう荒川農業委員長に求めました。会長は「どうてい容認できない」という全国農業委員長会議の決議にふれながら、前向きな答弁をしました。

私は6月議会の一般質問に立ち、北陸新幹線開業後のトキめき鉄道などの運行、農業委員会制度の改悪等についてとりあげました。答弁の中で村山市長は、鉄道各社の乗り継ぎ割引は年内に公表の見込みとのべました。

北陸新幹線開業まであと9カ月になりました。昨年秋、えちごトキめき鉄道は運賃を5年間は引き上げないと発表しましたが、いくつもの会社の車両を乗り継ぐと初乗り運賃がかかる事実上、運賃値上げになります。私は、急いで対策をとるよう求めました。

市長は、「JRをはじめとする隣接各社と実施を前提に協議を行っているところであり、割引の内容を含め、年内に決定し公表する」と答えました。石川県では関係各社間ですでに合意しています。

上越妙高駅へのほくほく線の乗り入れについては、えちごトキめき鉄道と北越急行が協議をして決める必要があります。協議が始まっている必要がなければ、協議がすすまないなら速やかに協議するよう働きかけてほしいと訴えま

市長によると、「両鉄道事業者からは、信越線は単線であり上下線のすれ違いに制限があるため、利用者の利便性の向上が特に期待される朝、夕のダイヤが混み合う時間帯においての乗り入れが困難であること、また、乗り入れには国土交通省から許可を得る必要があるが、そのためには乗り入れ区間となる直江津・上越妙高駅間において、北越急行の車両をえちごトキめき鉄道の乗務員が操作訓練する必要があるのであり、開業前にその訓練を実施することは極めて難しいと聞いている」ということです。私は、「訓練さえ済めば乗り入れ可能」というふう

に受けとめました。ぜひ早期に実現してほしいものです。



【オオバギボウシ】

リュウゼツラン亜科の多年草。個性的な白い花。漢字で「大葉擬宝珠」と書きます。いま、市内の山間部であちこちに咲いています。大きな花です。この若葉はウリイと呼ばれる山菜です。食べる時、さっくりした感触がなんとも言えません。ぬめりもあります。



は日本の国にあり方を覆す根本から覆す思想信条の違、をみなで、反対しなす。訴えたいま

閣議決定による憲法改悪許すな

軍国主義復活を目指す安倍内閣の暴走が続いています。

安倍内閣が閣議決定で憲法の解釈を変え、集団的自衛権の行使ができることを決めようとしていることから、私は連日のように街頭から訴えています。

私は、「この間の国会論戦をつうじて、集団的自衛権の行使とは、日本の国を守ることも、国民の命を守ることもない。イラク戦争のような戦争をアメリカが引き起こした際に、自衛隊が『戦闘地域』に行つて軍事支援を行うことになつた」ことが明らかになつた。「今年、自衛隊は創設60年を迎えたが、自衛隊は他国の人を一人も殺していないし、戦死者も出していない。これは憲法第9条があつたからだ。この解釈を変えようという

はしづめ法一の活動レポート

No.1662 2014.6.22
 発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
 Tel 025-548-3628 吉川有線 4867
 通じないときは 090-5392-1961
 E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
 URL http://www.hose1.jp/

ブログ「ホーセの見たある記」はこちら

 橋爪法一 検索

強い風にあおられて山にある大半の木の葉が裏側を見せた日のことでした。偶然と言えは偶然なのですが、山の風景写真を撮り終わり、軽自動車に乗り込もうとした瞬間、土手にある黄色のイチゴが目に入りました。

おやおや、こんなところにもあったのか。そんな思いで近づいてみると、イチゴはちよど食べ頃のものばかりです。まずはカメラに収め、その後、茎のあちこちに付いているトゲに注意しながら一つひとつもいで左の手のひらに入れました。

イチゴの実は小さな粒が集まって塊（かたまり）になっています。色は黄色というよりもオレンジ色に近い感じですが、手のひらにのせると、そうですね、粒は小さめですが、イクラと同じように光っていました。

イチゴの塊は大きなものでも、せいぜい直径一・五ミリくらいです。たいがい、ひとつの塊の中のいくつかの粒はカメムシなどに食べられていて、塊を丸ごと食べられないことが多いのですが、ここでみつけたイチゴのなかにはそういったものはほんの二、三個で、全体としてきれいなイチゴでした。

手のひらにのせたイチゴは全部で二個。何かの入れ物に移して、家へ持って帰ろうという気持ちにならなかったわけではありません。ただ、今年は家の近くですでに一回採り、妻などと一緒に食べたことがありました。家に持って帰るよりもイチゴの全部を口の中にパツと入れて食べてみたい気持ちの方が勝っていました。口に入れたイチゴは口の中全体にあっさりした甘みを広げていき、じきにのどへと移動していききました。

この日、私が見つけた黄色いイチゴは頸城区の玄僧（げんそう）という集落を過ぎ、吉川区へと抜ける道のそばにありました。小さな実を食べ終わってからは、近くの杉林のすそへと目を動かしたところ、イチゴの木はまだ何本もありません。しかも実がついていました。どうしようか迷ったのですが、採るのをやめました。あまり時間がないことが最大の理由です。もうひとつ、かっこいい言い方をすれば、このイチゴを楽しみにしている人は他にいないかも知れない、その人たちのためにも残しておこうと思ったのです。

じつは先日、私の地元でもキイチゴのことが話題になり、みんながこの実を楽しんでいることがわかりました。

私の牛舎の近くの杉林のすそに、最近、イチゴの木が増えてきています。それも黄色だけでなく、赤いキイチゴも急速に繁殖してきていました。それに気付いたのは私だけではありませんでした。よく散歩している「橋本屋」（屋号）さんも見つけ、「キイチゴならあそこにもあるよ」と何人かに教えていたのです。

「下稲場」（屋号）のお母さんもその一人でした。「ちよつと食べるだけでいいんだけどね」そう言うって私に声をかけてくださった「下稲場」のお母さんは、黄色いキイチゴを食べた時の喜びをうれしそうに語った後、「おまんに一度、訊いてみたいと思ってたがでもね」と言いました。そして、「いつ頃からあそこに赤いイチゴが増えたのか。食べられるんだろかね」と質問してきたのです。

おそらく、食べられるイチゴなら、お孫さんにも食べさせてあげたいと思っておられたのでしようが、話を聞いてうれしかったですね、何人もの人がキイチゴの小さな実のことに関心を持ち、ちよつとでいいから食べてみたいと思っているなんて。



上越地域各消防署における 空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だということです。

	6月11日(水)	6月18日(水)
上越南消防署	0.033	0.033
上越北消防署	0.050	0.050
新井消防署	0.047	0.050
頸北消防署	0.043	0.050
頸南消防署	0.047	0.047
東頸消防署	0.060	0.053
高士分遣所	0.050	0.050
名立分遣所	0.053	0.047

一昨年10月にスタートした新潟県のドクターヘリは県民のいのちを守るうえで極めて重要な役割を果たしています。この間、市内では吉川区や安塚区などで出動しています。

県はこの間の問題点と課題を整理するなかで、ランデブーポイント（救急車との合流地点）の整備やドクターヘリの複数化

の検討を始めています。

先日、新潟大学医科歯科大学病院を訪れた際、大学病院の屋上の離着陸場に待機しているドクターヘリを見ることができました。

内部には様々な医療機器を備えているドクターヘリ、外観は思っていた以上にコンパクトで機動性があると思えました。

「背中かき」出版記念会

今春、私が出版した5冊目の随想集、「背中かき」(北越出版)の出版記念会が開かれることになりました。

これは、市内の友人のみな

さんが集まって、企画してくださったものです。

多彩な内容での楽しい会になりそうです。ぜひご参加ください。

日時 7月13日(日) 13:30~
会場 ホテルハイマート(直江津駅前)
会費 5000円
申込み 事務局の平良木哲也さんまで

〒943-0884 市内上中田243の8

携帯電話 090-1808-6919

メール nanten@joetsu.ne.jp

ファックス 025-522-5812

